町村週報

（町村の購読料は会費の中に含まれております）

2819号

毎週月曜日発行

発行所　全国町村会　〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486　FAX03-3580-5955

発行人　山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円（税、送料含む）　振替口座00110-8-47697　http://www.zck.or.jp

もくじ

活動　政府税制調査会に白石副会長が出席
―平成25年度税制改正に際し、地方税の充実・確保を訴える―……（2）

論説　第二のふるさとへ　感謝を込めて……フリーアナウンサー　青山　佳世…（3）

フォーラム　災害を切り口とした地域間交流と地域おこし「智頭町〝疎開〟保険」＝鳥取県智頭町……（6）

情報　町村Navi……（10）

随想　原子力発電所がある風景……新潟県刈羽村長　品田　宏夫…（11）

ぴあパーク　とうりんぼ（新潟県刈羽村）

◉写真キャプション◉

新潟県刈羽村の新しい複合施設です。この名前は、かつて村内の桃畑で花見の季節に設けられた臨時駅「桃林（とうりん）駅」にちなんでいます。村内外から多くの人々が訪れてほしいという想いが込められています。

コラム

湯治場の復活

ジャーナリスト　松本（まつもと）　克夫（よしお）

宮城県の東鳴子温泉の老舗旅館の主であるOさんから、温泉地の今昔物語を聞かせてもらった。Oさんによると、昔は農家や漁師の人たちが農・漁閑期に湯治にやってきて、1～2週間滞在した。毎年恒例だったから、客同士も顔なじみだった。

高度成長期に入ると、それまでと温泉の雰囲気ががらりと変わった。保養より観光が主流になり、団体客が押し寄せ、がむしゃらに働いた分、がむしゃらに羽を伸ばす場になった。旅館は競って宴会場を広げ、大量集客に備えた。しかし、バブルがはじけると、温泉街は宴の後のように閑散としてしまった。世の中全体がせわしなくなり、長逗留の湯治客も稀になった。

さて、寂れた温泉地をどうするかだが、Oさんは、原点に戻って、湯治場として再生させるしかないという。客が減ったから、仕方なく昔に戻るというのではない。団体客のどんちゃん騒ぎで明け暮れていた間に、肝心の温泉の価値が忘れられていた。自然の恵みに対する感謝の念や、その恵みを最大限に生かすための作法も失われた。温泉には体内にたまっている不要なものを外に出す作用がある。しかし、それには、1泊や2泊では足りない。昔の湯治客はその辺を心得ていた。年中行事の中に湯治を組み入れる生活の知恵や湯治文化を蘇えらせたいというのがOさんの願いである。

この話を聞いて、温泉の今昔には、日本の近代が映し出されており、湯治場の復活という志には、壁に突き当たった日本の活路が暗示されていると思えた。恐らく、団体客に沸いた一時期の繁盛の再現を夢見ても無理である。自然の恵みを生かし切る今風の生活スタイルを見つけた方がいい。

Oさんは、「田んぼ湯治」や「地大豆湯治」という新しい湯治のスタイルを提案している。昼は田畑で汗を流し、夜は温泉に浸るという、土から離れた都会人向けの提案である。その成否はともかく、これぞ温泉地としての王道と感じ入った。

政府税制調査会に白石副会長が出席

―平成25年度税制改正に際し、地方税の充実・確保を訴える―

全国町村会

政府税制調査会（会長　城島光力財務大臣）は10月24日、平成25年度税制改正にあたり地方団体との意見交換を行い、本会からは白石勝也副会長（愛媛県町村会長・松前町長）が出席した。

白石副会長からは、町村にとって地方税は地方自治の基礎をなす重要な財源であり、交付税とともに地方税の充実・確保による財政基盤の強化が不可欠であるため、①今後の「税制に関する抜本的な改革」の検討にあたり、社会保障に大きな役割を果たす市町村の減収につながる見直しは極力行わないこと。②消費税の引き上げにより広く国民負担が増す中で、特定の分野のみ税負担の軽減を行うことは厳に慎むべきである旨述べた上で、以下の5点について発言を行った。

▲会議に出席した白石副会長

はじめに、「個人住民税の充実確保等」について、個人住民税は町村の基幹税目であり、「地域社会の会費」という性格があることから、政策的な控除は行わないことが原則であり、住民税に影響のある住宅ローン控除の延長は極めて慎重に検討するとともに、仮に延長する場合は、減収額を全額国費で補填するよう求めた。

次に、「固定資産税の安定的確保」に関し、経済産業省が要望している、償却資産に対する固定資産税のうち「機械及び装置」に係る新規取得分の非課税及び長期保有分の評価額の最低限度（5％部分）の廃止が認められれば、市町村全体で6、000億円近い税収が失われることとなり、社会保障サービスの提供にも大きな影響が及ぶため、現行の課税対象及び評価額の最低限度等を堅持するよう訴えた。

また、「温暖化対策税制の創設」については、「地球温暖化対策のための税」がこの10月から導入されたが、税の使途が「排出抑制対策」に限定される一方、「森林吸収源対策」が除外されていることに加え、地方の果たす役割に応じた財源配分もないという極めて不十分な状態であるため、税の使途に「吸収源対策」を位置づけ、所要の財源を措置するとともに、この税の一定割合を、森林整備、国土保全、自然災害の防止を推進する町村の役割を踏まえ、森林面積に応じて譲与するなど、「地方の地球温暖化対策に関する財源確保」を実現するよう、強く要請した。

「自動車取得税等の見直しに係る代替財源の確保等」については、「自動車所得税」は税収の約7割が交付金として、「自動車重量税」は税収の約4割が譲与税として市町村に配分されている偏在性の少ない貴重な財源であり、見直しの検討を行う際には、代替財源の確実な確保を前提とするよう求めた。

最後に「ゴルフ場利用税」について、ゴルフ場利用税はその7割が所在市町村に交付され、地域振興を図る上でも重要な財源であると主張。また非課税措置などの見直しも行われる等十分な配慮がなされている現状で、十分な担税力のあるゴルフ場の利用者に関してのみ税負担の軽減を行うのは国民的理解が得られないとし、現行制度の堅持を要望した。

論　説

視点

第二のふるさとへ　感謝を込めて

フリーアナウンサー　青山　佳世

「ここはわたしの第二のふるさとです」

各地へお邪魔した時によくこんな御挨拶をします。少しいいすぎかもしれませんが、お愛想でもなんでもありません。今までに数百のまちやむらを訪ね、旅、農林水産業、農商工連携　バイオマス、空港、港、治水砂防、道路、防災などなど様々なテーマで学び育ててくれた地域は、私にとっては第二のふるさとそのものです。

実際に訪れることの大切さ

そんな思いを抱くようになったきっかけはNHKで担当した旅番組でしょうか。今から20年ほど前のこと、いわゆる観光名所ではないまちやむらを訪ね、その土地の方たちと出会い、その土地の暮らしぶり、味覚、元気な人たちを紹介する発見と出会いの旅。今でこそあちらこちらの旅番組で「こんにちは。初めまして」と地元の人と出会う演出の走りの番組でした。元気に地元の言葉でそのまちの良さや自分の作った野菜のおいしさを語るおじいちゃん、おばあちゃんはなんとも魅力的。もぎたてのきゅうりのしゃきっとした歯ごたえ、雪にさらしたニンジンの甘いこと、丹精込め新鮮な食べ物を作っていくことの大切さとありがたさを改めて感じるのでした。いつしか私たちも素敵な人たちが暮らすそのまちのファンになり、思わずコメントにも力が入ります。（もちろん放送は公平ですが、私たちも人間です）

役場に行って驚きました。町の名人達人、一番の撮影スポットなど的確にいろいろな切り口で提案してくださり、「わらじ作りなら誰それ。豆腐料理なら誰それ。しゃべりもじょうずだからね。」まち中すべてご存知なのです。大きなまちではとても住民一人一人のことまで把握しきれませんが、小さな行政の強みです。

ジャガイモや小麦などの花々が織りなすパッチワークの丘、観光客のために作ったものではなく野菜の生産活動が力強く美しい風景を生み出したのです。暮らしや生産に裏打ちされた生きた風景は、誰しも直感的に作る人の汗や思いを感じ取って感動を覚えるのでしょう。

旅先で私が味わった感動は観光の原点。是非とも多くの人たちにも、まちや村へ訪れ、その価値を体感するような旅をしてほしいと痛感しました。交流や研修、グリーンツーリズムなどを含めた観光（国の光を観る＝地域の活力や魅力、宝を観てまわること）は、旅人はもちろん、地元の人たちにとっても、日常の当たり前のことが貴重な宝であるという自らの再発見になるからです。

森林の恵みに感謝して

一方取材の合間にかわす会話の中で、農村や山村が抱える課題も伺いました。旅の番組ですから、魅力的な面だけを紹介することになってしまいますが、中山間地域の過疎化の問題、林業が振るわず森林が荒れている現状、農業や漁業の跡継ぎ不足などなど、都会の私たちの生活を支えてくれている農山漁村が危機に瀕していることを目の当たりにしたのです。それも愚痴や泣きごとではなく、その町をこよなく愛し、何とかしたいと行動しながらのメッセージ

論　説

だったからこそ、素直に心に沁みて伝わってきたのです。

ある町に「美人林」と呼ばれるブナ林がありました。言い得て妙のネーミング、昔の人は粋だなと感心したのですが、そうではありませんでした。ブナは見た目が美しいだけで、使い道のない役に立たない木だと皮肉を込めてつけられたのだとか。本当の「美しさ」とは単に見た目のことではなく、人間も同じですが内から湧きでる活力ある美のことでしょう。今では癒しの力も評価され、その名の通り美しい象徴のブナ林として、人気のスポットになっています。

「緑豊かな自然に恵まれた…」という山村の枕詞があります。よく手入れされた森は、整然と並んだ杉やひのきが真っすぐに天に向かってそびえ、木漏れ日がさし込んで本当にきれいです。しかし一見豊かな森が、健全な形で育っていないことを知ります。木造中心の住宅から、コンクリートや鉄筋の建物に変わり、さらに安い外材へとシフトして、日本の林業は衰退の一途。長年にわたる緑化運動や国民参加の森林づくりの成果で、日本は多くの緑に覆われましたが、手入れが行き届かなくなり、決して健全な活力ある森林とは言えないわけです。ここ数年の地球温暖化防止における森林の役割が評価され、外材が手に入りにくくなっている追い風の中で、総力挙げて森林整備が進んでいることは喜ばしい限りですが、それだけでは「杉の美人林」になってしまいます。育てて使ってまた植える…資源の少ない日本の貴重な資源をきちんと使って循環させてこそ、本当の美しい森林といえます。

山からの搬出コストを低くすること、公共建築物に国産材を使うこと、バイオマス活用などの努力を続けていますが、今や世界で一番安くなってしまった国産材が、私たち消費者の手に届く時には高くなってしまうことが最大の課題。きちんと山へ利益を戻し、かつ安く（適正に）消費者へ供給するために関係者のさらなる努力が必要です。

大規模化で競争力を高めることと、「じいさんは山へ柴刈りに…」という世界は今両方必要な要素だと思います。

そこに人が暮らすこと

都会の人間も森林への感謝を込めてお手伝いがしたいと森林ボランティアとして山に入る人が増えてきました。皆さん熱心に活動していますが、頻繁に作業にでかけるわけには行きませんし、いつも山の表情をみているわけにもいきません。やはり山村に住む人あってのボランティアです。

そこに住み暮らす、そのためには生業がしっかりすることが肝心です。多少不便な地域でも、大変な仕事でも、働く場と収入が確保され将来に希望が持てれば、若者も後継者も住む人はでてくるはずです。

NPO地球緑化センターが取り組む「緑のふるさと協力隊（地域おこし協力隊の原型）」はこれまでに多くの若者をまちやむらに送りだしました。熱心に受け入れる地域と、貢献したいと思いを抱く若者、きめ細やかに両者をつなぐNPOの三者の力が相まって、ふるさとに残る若者も多く、いろいろな事情で家に帰らなければならない若者も、農村での経験を活かしながら都会で働き、第二のふるさとの力強い応援団となっています。今の親御さんにはなかなかできない伝統的な暮らしや習慣、文化、逞しい生き方を教えるには田舎は格好の先生です。義務教育の一環に加えるくらいのことがあってもいいのではないでしょうか。

山に点在して人が住むと、行政コストがかかるので　中心部に移り住

青山　佳世（あおやま　かよ）

愛知県生まれ。商社勤務後、フリーアナウンサーに。平成元年からNHKの番組を担当し、おはよう日本「季節の旅」での226カ所を取材した他、全国800か所を旅する。他に観光、地域づくり、川、道、交通、環境、森林などをテーマに市民の立場から幅広く活動。国土交通省「交通政策審議会」委員、林野庁「林政審議会」委員、人事院「交流審査会」委員ほか、国や自治体の審議会委員多数、日本自動車連盟理事（非常勤）などを務める。

著書「旅で見つけた宝物」文芸春秋。

論　説

めばいいという議論があります。例えば数人、数十人のために砂防堰堤をつくるのは無駄だと。しかしその堰堤は下流の大勢のひとたちの安全のために貢献する多くの砂防堰堤の中のひとつの堰堤であるかもしれません。上流部の安全なくして下流部の安全はありえません。

人が住んでいるからこそ、道路整備始め折々に山に入ることで普段とはちがう山の変化も見過ごさないですむとか、そこに人が住むことの意義を今一度見つめなおし、目の前の効率や効果だけにとらわれずに、国土全体俯瞰的にとらえてほしいものです。

▲「ヨーロッパで一番美しい花の村」にも選ばれた
オーストリア　アルプバッハ

まちむらを誇って

海外の事例を日本にそのまま持ち込むのは好きではありませんが、ヨーロッパやカナダなどの街並や景観に対する取り組みは見習うべき点が多いと思います。どこを切り取っても「絵になる風景」。多くの皆さんも感動したことでしょう。なぜ日本で実現できないのでしょう。日本にも歴史的な街並や、農村漁村風景などの美しいといわれる風景が維持されているのはごく限られたエリアであることがほとんどです。必ず邪魔な看板や電線、そぐわない建築物、田園や工場などが入り乱れた節度のない土地の使い方がされていることは本当に残念です。

越後で震災復興に当たり、議論を重ねた上で地元の木を使った復興住宅を作り、日本の原風景を蘇らせようとしましたが、徹底することはできませんでした。各地の街並保全に取り組む地域でも、自治体や住民の合意をえることに大変苦労をしています。

海外では徹底的に農村風景を維持するために税金も投入、住民の意識もまとまっています。ひろびろとした牧場、のどかに草を食む羊や牛を観光用に飼育（もちろん生産のための牧場もあるわけですが、それを面的に風景に広がりを見せる重要な役割を果たしています）、その豊かな風景を求めて世界中から人々が訪れます。木をふんだんに使った重厚な農家、そして立ち並ぶ一流のホテルも山並みや農家とマッチする構え、地元の食材を使った一流シェフのフレンチに舌鼓を打つ。何日も滞在すれば必ず地元のレストランの地元の味を楽しむことになります。建物の中は快適そのもの、薪をつかった暖炉で暖を取ることがおシャレな住まい方なのです。農村が一流の観光地であることに驚きました。徹底して農村を磨きあげたことの賜物です。その辺日本は中途半端。都会にない魅力や宝をとことん磨きぬく…行政も住民もまだまだそこまでに至っていません。決して不便を強要されるのではなく楽しみ誇りに変えること、徹底して田舎を貫き通すこと。ただし田舎くささに徹するのではなく、ＩＣＴ（情報通信技術）を駆使した住む人・訪れる人の快適性などを含めた、田舎に一流の付加価値を加えることも必要です。

日本もそんな価値観を持って日本の誇れる風景を磨き、作り上げていきたいものです。農村は文化・風習・風景・そして国土の保全すべてにおいて日本の原点です。市町村合併で町村の数が減りましたが、そうした中で町村であることを選んだ地域にエールを送りたいものです。

私たちも機会あるごとにふるさとの良さや意味や課題と伝えて行きますが、なんと言っても地元へ行ってその空気の中で感じ取ることが一番です。各地の皆さんも「日本の原点」であるという誇りを持って磨きあげ、都会に住む多くの人たちにその元気と魅力を伝え、多くの第二のふるさと応援団とともに課題を乗り越えていって頂きたいと思います。

現地レポート

町村独自のまちづくり

災害を切り口とした地域間交流と地域おこし「智頭町〝疎開〟保険」

自治体発！自治体初！

「みどりの風が吹く〝疎開〟のまち」をキャッチフレーズにまちづくりをすすめている智頭町は、鳥取県の東南部、岡山県との県境に位置している。周囲は1、000m級の中国山脈の山々が連なり、その山峡を縫うように流れる川が合流して千代川となって日本海に注いでいる。長い歳月を経て、鳥取砂丘の砂を育んだ〝源流の森〟が広がる。まちの総面積の93%が山林で、スギをはじめとする見渡すかぎりの緑が一面に広がる。春には、ソメイヨシノ、シャクナゲ、ドウダンツツジ、夏には清涼な緑、秋は紅葉、そして冬には雪化粧と、1年を通してまちを彩る美しい自然にあふれている。

△町内の新田集落の田んぼの風景

△板井原集落にある古民家で囲炉裏を囲む疎開体験ツアー参加者

フォーラム

2011年4月から始めた「智頭町〝疎開〟保険」の発案者は寺谷誠一郎町長。「保険」と名前はついているが、災害を切り口とした地域間交流、物流、商流による地域おこしである。地震等の災害が起こったとき、一番困るのが生活場所の確保。「地震・噴火・津波等を原因とする災害救助法が発令された地域の加入者」に「智頭町内および近隣町村提携施設での1泊3食7日分の食事と宿泊場所の確保・提供」を行う。また、加入者特典として、智頭町自慢のこだわりの米や安全でおいしい野菜などの特産品をお届けする。日本に在住の人で、先着1、000名までの受付。加入金（保険代金）は1人1万円、保険期間は1年間でスタートした。現在は全国約350名の方が加入している。

△智頭野菜新鮮組のメンバー

お年寄りに元気を、地域に交流を

「農業を軸にするにはどうしたらよいかと考えたとき、主たる農業従事者のじいさんばあさんに何ができるんかいなと考えた。じいさんばあさんは米作り、野菜作りの名人だ。この人たちに光を当てよう」

「お年寄りが土からこだわって作ったホンモノのお米や野菜を買い取る。今まで家族で食べる分だけで、たくさん作っても余っていた。作った分を買い取ってもらえるとなると張り合いもでるし、ちょっとしたお小遣いになって元気になる。このお米や野菜が届いた都会の人は、智頭町のファンになる。森林セラピーや農家民泊があるから疎開の下見に行こうかと交流が始まる」と町長。

△智頭町自慢のこだわりのお米や野菜などの特産品

〝かわいい孫に食べさせたくて作った野菜をほんの少しおすそわけ〟という気持ちのお年寄りたち。何をどれだけ作って出荷するかは自由。作った野菜を収穫できただけ集荷場所に持ち寄る。集荷日に集まった野菜を、みんなで作業を分担して一斉に箱詰めして加入者に送る。そして、安全・安心で新鮮な野菜をまごころ込めて作る生産者のグループ「智頭野菜新鮮組」も誕生した。みんなで作業しながら野菜作りの情報交換をしたり、箱詰めの方法について話したり、この場でも人と人とのつながりが広がっている。

「知り合いにお餅を作って送る時にはね、南天の葉を上にのせて送るのよ。南天は難を転じると言ってね」とメンバーのおばあさん。

小包を受け取った加入者からは、その心遣いに感謝する手紙が送られてきた。花瓶に入れると元気を取り戻し、秋の風情が感じられてよいと。手紙とともに、飾られた花、届けられた米と野菜、それを手に喜ぶ子どもたちの写真を送ってくださった加入者もいる。お互いに会ったことのない加入者が多いが、電話や手紙をいただくと、「あー、あの方ね」と親しみがわいてくる。また、お米や野菜を宅配で送ってほしいと個別注文をする加入者もいる。「智頭野菜新鮮組」の野菜は関西でも産直販売されていて、生産者のお年寄りが

△森の中でゆったりと深呼吸

◁田舎暮らし体験住宅「いろりの家」

そのひとつが「森林セラピー」。〝森林は町の大切な財産〟としてとらえ、森の持つ癒し効果に着目し、ゆったり深呼吸できる豊かな自然空間と人々とのつながりを育むまちづくりを行っている。「森のガイド」を養成し、県内初の「森林セラピー基地」に認定されている。

また、民泊協議会を立ち上げ、訪れる人々のために数十軒の民泊先も確保。疎開保険の宿泊先ともなっている。町内の民家に宿泊し、智頭町が〝第2のふるさと〟となるようにふれあいあふれる滞在型プログラムを用意している。

加入者に智頭町を訪れてもらおうと、昨年は1回、今年は3回疎開体験ツアーを実施。国指定重要文化財「石谷家住宅」をはじめとして、昔ながらの古い建物の集まる遊歩百選「智頭宿」、昭和30年代の日本の原風景を今に残す伝統的建造物群保存地区「板井原集落」を散策し、民家に宿泊して田舎暮らしを体験、交流を深めていただいた。また、「森林セラピー」では「森のガイド」が一緒に芦津のセラピーロードを歩き、森の癒しに導いた。民泊は夕方からの1泊で初めて会った人同士にもかかわらず、翌朝の別れは名残惜しく、親しく交流を深めた様子であった。手作りのお土産を手渡す人もあった。加入者からお礼の手紙が届いた民泊家庭もあった。

既に森林セラピーと民泊を体験し、疎開体験ツアーでは以前と違う民泊先に宿泊した参加者がいた。ツアーに参加していることを知った以前の民泊先の人がその参加者に手紙を渡しに来て、再会を喜び合うという光景もあった。一度出来た縁はずっとつながっている。

民泊は、森林セラピーや疎開保険以外でも利用されている。お酒を酌み交わし、話に花が咲いたということもあるようだ。

町は、民泊の他に、移住や定住を考えている人が長期滞在も可能な「田舎暮らし体験住宅」も準備した。智頭町での住宅探し、仕事探し、地域との交流、トレッキング、観光の基地として活用できる。東日本大震災での放射能汚染から逃れて、子どもを安全な所で過ごさせたいと数日間滞在した家族もある。数日間の滞在でも、新鮮な野菜のおすそ分けや地域行事への参加など、管理人や地域の人々とのふれあいがある。訪れた人は田舎の温かさに感激し、町民は外からの刺激を受ける。その家族は滞在中に、智頭の豊かな自然環境を育ちの場とし、雨でも雪でも町内9ヵ所の森のフィールドをお散歩し自由に走り回ったり遊んだりする「森のようちえん」の体験も行った。「森のようちえん　まるたんぼう」は「智頭町の森の中で子育てできたら素晴ら

△国指定重要文化財「石谷家住宅」

△民泊受入家庭と疎開体験ツアー参加者の顔合わせ

智頭町でゆったりと

「災害に限らず、都会の暮らしはストレスがたまる。サラリーマンが働きすぎて疲れてうつ病になる。お母さんが子どもを床にたたきつける。そんな都会のストレスから逃れてみんな田舎にいらっしゃい」と町長。

「いよいよ田舎の出番です」ということで、数年前から人々を受け入れるための様々な取り組みを行ってきた。

更に元気になる。

様々なパンフレットやチラシ、新聞記事などを智頭町に送って情報提供や提案などで、応援してくださる人もいる。疎開保険が縁で智頭町に興味・関心を持ってもらい、様々なつながりが広がっている。

フォーラム

△疎開保険チラシ

しい」と一人のお母さんが「百人委員会」（住民のアイディアを町政に活かすための政策提言組織）で提案し、町や県の支援のもと専属の保育士を雇って運営しているものである。この「森のようちえん」には、半数以上が町外から通っている。県境を越えて岡山から通う子どもがいたり、移住した人もいる。「森のようちえん」を立ち上げ、事務局長として活躍するお母さんも、智頭の森に惹かれて家族で移住した一人である。町外からの新たな風が吹いている。ここでも森が新たなつながりを生んでいる。

1月から制度変更

町長が「智頭町〝疎開〟保険」の記者発表を東京で行ったのは2011年3月7日。その直後「東日本大震災」が起き、PRもしばらくストップしていた。テレビや雑誌で取り上げられたり、問い合わせや申込みもあることから、秋にPR再開。

2012年1月には智頭町が加盟している「日本で最も美しい村」連合事務局の美瑛町東京事務所があるフォレスタ虎ノ門で、疎開保険や森林セラピーのPRイベントを行った。町長が町の魅力を語り、智頭町産の食材を使った料理に舌鼓を打ちながら、交流を深めた。事前に電話やメールのやり取りがあった加入者との対面では、親しく声をかけていただき、以前からの知り合いのような気がした。

疎開保険事業は開始して1年目で課題もある。

「家族7人で加入したいけれど、1人1万円だと入りにくいなあ。家族割引はないですか。」「1人1万円となっているけど、家族コースはないですか。」

既に夫婦や家族で加入し、1家族で2～4件加入されているケースもあるが、家族での加入を考えた場合に金額がネックになっているようなので、家族コースの検討を行った。加入期間も、年度途中で加入しても3月までとなっていたが、ニーズが多いことから、併せて変更することとした。問い合わせや加入申込みが相次ぎ、4月まで待ってもらうのもどうかということで2012年1月から制度変更した。加入期間は加入日から1年間、新たにファミリー2人コースとファミリー3～4人コースを設けた。2人コースは15、000円、3～4人コースは20、000円である。昨年12月までの加入者は126人、1月からの新制度には45件、94人が加入している。今後も体験ツアーや交流会で、新たなつながりが生まれることであろう。

「いよいよ田舎の出番です！疎開保険に加入し、ぜひ一度智頭町においでください。」

智頭町長　寺谷誠一郎

何かと面倒な相続手続き、
お手伝いいたします。
遺産整理業務
［わかち愛］
©F.W.
※遺産整理業務には所定の手数料がかかります。※遺産整理手続き完了時：例）遺産額2億円の場合、遺産整理業務手数料2,887,500円（消費税込み）。（平成17年10月1日現在）
三菱UFJ信託銀行
MUFG
お問い合わせは 0120-349-250 ご利用時間／平日・土・日 9:00～17:00（祝日等を除く）（回線がつながりましたら5#を押してください。）

三井住友信託銀行
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK
http://www.smtb.jp 三井住友信託銀行 検索

随　想

原子力発電所がある風景

新潟県刈羽村長　品田　宏夫

のどかな田園風景が広がる刈羽村は新潟県のほぼ中央に位置し日本海から潮の香ただよう海沿いにあります。長岡市に隣接する飛び地を除きまわりを柏崎市に囲まれた小さな村です。社会インフラは整い、教育環境の充実に力を入れている村に4、800人が暮らしています。

平成の大合併で112市町村は20市10町村となり我が村は人口規模で2番目に小さい自治体となりました。地域経営の手段として合併を否定しませんが20の強力な集落自治力を持つ刈羽村は違う選択をしました。

稲作中心の農業は近代化が進んでいます。平成に入ってから農家戸数は70％以上減少しましたが少数の力強い農家が営農をリードしています。

海と村を隔てて標高70ｍほどの砂丘があります。かつてそこは優良な農地で、栽培される作物が富を生んでいた時代もありました。豊富な水を地下に蓄え、農地としてのポテンシャルは高いものの現在はほとんど自然林の状態です。

砂丘と海の間にあるのが東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所です。今エネルギー政策、中でも原子力政策は揺らぎの真っ只中にあります。

昭和40年代半ばから発電所の立地をめぐり刈羽村は数々の混乱を経験してきました。

エネルギー調達は国家の大命題です。手段のひとつとして原子力利用を選択し、この国が今日まで発展を遂げてきた事実は誰も否定できません。国策と長くつき合ってきた私たちにはエネルギー政策を論ずる能力があると自負しています。

福島の事故は原子力災害の怖さをまざまざと見せつけました。1年半を経た今も原子力政策の混乱は収拾していませんが恐怖心に支配されていたのでは冷静な議論は期待できません。9月に発表された「革新的エネルギー・環境戦略」を見て本当にこの国は大丈夫かと思いました。

原子力発電所が次々に停止し発電戦力から離脱していくことが深刻な社会問題を引き起こしています。少なくとも短期スパンでは原子力発電が不要とならないことは明らかになったのではないでしょうか。

原子力事故の怖さは経験しましたが原子力のない怖さはこれから経験することになります。中・韓・露と領土問題でもめていますが問題発生の引き金のひとつにこの国のエネルギー調達力の弱さがあることは明らかです。

刈羽村はこの10月に大型複合施設をオープンさせました。メルヘンチックなカフェ、スイーツガーデン。ＪＦＡ公認のサッカーコートと宿泊交流センター。砂丘桃のほ場。施設園芸の大規模ハウスと園芸トレーニングセンター。新潟大学の先端農業バイオ研究センター。一見趣旨の異なる施設群ですが刈羽村の発展に欠かせない要素を有機的に配置した新しい財産です。

この事業は原子力発電所と立地地域の共生を表そうという趣旨のもと、刈羽村地域共生事業と銘打ち東京電力(株)の寄付で実施したものです。

平成9年の発電所完成以来、長い年月をかけて練り上げ22年3月に寄付を受け建設をスタートさせたところです。

当初から公設民営で運営するという構想で運営各者は自立して施設の経営にあたります。近くのスーパーが廃業して買い物難民がでたなどということを耳にしますが、民間企業が果たしていた役割には、それが商売であっても十分に公の価値が認められます。長い時間をかけて公共事業の概念を刈羽村では変えてきました。

昨年の福島原発事故以来、電力各社の地域貢献活動がいかにも悪事と捉えられヤリ玉に挙げられていますが冷静に考えるべきです。企業の社会貢献、地域貢献は不要。企業メセナなど何の価値もないということになるのでしょうか。

一流国家にこだわるつもりはありません。しかし私たちが目標を掲げ、努力してきた結果の今日の幸せな社会を簡単に昔に戻せるとは思えません。

領土は誰かが守ってくれる。安いエネルギーを誰かが提供してくれる。食糧はいつもふんだんにある。そんな考え方を平和ボケと呼ばずして、どう呼んだらいいのでしょう。

覚悟を求められるときは必ずやってきます。

車両共済（保険）のご案内

（自動車総合保険の車両保険）

この車両共済（保険）は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償（車両保険）」を追加する制度です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済（保険）金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

○無事故による割引で新規から **33％（保険料）割引**
（ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去３年間無事故の場合は、ノンフリート等級９等級からスタートします。）

○集団扱年一括払いによる割引で更に **5％**

○保険料分割払（12回）も選択可能です。
（保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払の５％割引の適用はありません。）

さらに

無料ロードサービスがついてきます。
ご契約のお車が、事故・故障で自力走行できなくなった場合、事前にロードサービス専用デスクにご連絡ください。JAFにお取り次ぎし、レッカーや30分程度の緊急修理などを手配します。
●バッテリー上がりや、キー閉じ込み、ガス欠など

◎１年間事故が無かった場合は、翌年の等級は１等級上がります。
事故によって車両共済（保険）をご利用された場合は、事故件数１件につき３等級下がります。

契約条件と掛金（保険料）例

・自動車総合保険（損保ジャパン）保険期間１年
・自動車保険集団扱年一括払による割引５％適用。

車名	フィット
型式	GE6
初度登録	平成23年2月
年齢条件	26歳以上補償
運転者限定	本人・配偶者限定
記名被保険者	30才
新車割引	有
共済（保険）金額	150万円
払込方法	集団扱年一括払

加入タイプ	自己負担額(免責金額)なし	自己負担額(免責金額)5万円
一般条件（割引適用済）	56,400円	42,710円
（通常・新規で加入する場合）	79,970円	60,570円
車対車＋Ａ（割引適用済）	25,040円	18,960円
（通常・新規で加入する場合）	35,500円	26,880円

・上記掛金（保険料）は、町村生協の自動車共済で過去３年間無事故（ノンフリート等級９等級）の場合のものです。保険料は平成23年４月１日現在のものであり、変更される場合もあります。
・掛金（保険料）は、型式、初度登録年月、年齢条件、運転者限定特約の有無、共済（保険）金額、等級などにより異なります。
・上記掛金（保険料）例の「通常に新規で加入する場合」とは、ノンフリート等級６Ｓ等級を適用した保険料を例示したものです。
・このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店（千里）または損保ジャパンの営業店にお問い合せください。
※この車両共済（保険）をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください。

株式会社　千里（取扱代理店）
●フリーダイヤル　**0120-731-087**　（受付時間　月～金　午前9時30分～午後5時）
お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください。
●FAX番号　**03-3519-7325**
●ホームページアドレス　**http://www.chisato-ag.co.jp**
〒100－0014　東京都千代田区永田町1－11－32　全国町村会館西館内

●「車両共済（保険）制度」は、全国町村職員生活協同組合と株式会社損害保険ジャパンとが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
●集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。
詳細については、取扱代理店（千里）または損保ジャパンにお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉㈱損害保険ジャパン　SJ10-13443(2011.3.18作成)